

白川原大池 【保存版】

ため池決壊の想定条件

地震や大雨によって、満水状態の白川原大池が決壊し、全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定しています。

浸水の深さによって避難方法は異なります

- 浸水しない場所（空き地、道路など）
- 自宅の2階、危険のない近くの高い建物
- 自宅にとどまる

いざというときの連絡先（TEL）

さぬき市	代表	087-894-1111
警察	事件・事故の通報	110 局番なし
消防	火事・救助・救急	119 局番なし
災害用伝言ダイヤル	災害時の安否確認	171 局番なし

安全安心コミュニティ（登録無料）

<http://anshin.sanuki.ne.jp/m/>
登録しておくだけで、さぬき市における緊急災害情報などが携帯電話のメールに配信されるサービスです。



ため池決壊について知ろう

想定される災害を事前に知り、一人ひとりが災害について、「わがごと」として考えることが、減災への第一歩となります。

ため池決壊の原因（地震と大雨）

地震

さぬき市では、東南海・南海地震（今後30年以内に発生するおそれ）が同時発生した場合に、震度5強～6強の揺れが予測されています。また、地震列島である日本では、どこにおいても直下型地震が発生する可能性があります。

大雨

近年、短時間に激しく降る大雨（ゲリラ豪雨）が日本各地で増加しています。台風や梅雨時期に雨が降り続けると、ため池の水位が上昇し、ため池決壊のおそれがあります。

ため池決壊の起こり方と、その被害

- 南海地震や直下型地震、大雨で堤防が破損する。
- 破損した堤防が、貯水に耐え切れず「決壊」
- ため池決壊による被害
 - 大量の水や土砂が濁流となって、瞬間に押し寄せます。
 - 山崩れ、内陸部における津波とも呼ばれます。
 - 建物や車は押し流されます。
 - 道路や住宅地、田畑は土砂に埋まります。

ため池決壊と同時に発生するおそれがある災害

ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で様々な災害が発生していることが考えられます。ため池決壊と同時に注意が必要です。

- 地震
 - 地震のあとに想定される災害
 - 土砂災害
 - 内水は人室
 - 河川は人室
- 大雨
 - 大雨のときに想定される災害
 - 土砂災害
 - 急傾斜地危険箇所

災害事例

地震 一福島県 須賀川市

東北地方太平洋沖地震（平成23年3月11日）による震度6弱の揺れで、藤沼湖が決壊し、死者・行方不明者8名を出す被害となりました。

- 長時間の強い揺れによって、地震後に決壊。
- 田圃などで満水状態であった貯水が全て流出した。
- 下流の集落に濁流となって押し寄せた。

身近なところでもため池決壊は起こっています。

大雨 一香川県 さぬき市

平成23年9月の台風15号に伴う大雨によって、薬師堂下池（津田町）の堤防が幅18m、高さ5mにわたって崩れました。

- 緊急的に水位を下げたことにより決壊を免れた。

状況に応じた避難をしよう

想定される浸水の深さによって、避難方法は異なります。いざというときに、どのように行動するのか、家族や地域で話し合ひましょう。

ため池決壊による浸水の深さを想定した避難の流れ



避難情報に注意しよう

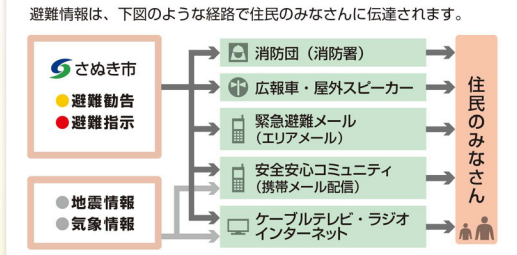
避難の際に大切なことは、正しい情報入手し、あわてず冷静に行動することです。危険を感じたら、避難勧告や避難指示が出る前でも自主的に避難しましょう。

避難情報を入力するときの注意事項

地震のあと 被災状況（防災行政無線の故障、広報車の通行不可、停電など）により、通常的手段を通じた情報の入手が困難になります。そのことを前提と考え、備蓄やデマに惑わされず、冷静に対応しましょう。

大雨のとき 大雨時は家屋内にいる場合が多く、防災行政無線や広報車の呼びかけが雨の音で聞こえにくい場合があります。テレビやラジオ、インターネットなどから自主的な情報収集を心がけましょう。

避難情報の伝達経路と内容



インターネットによる情報収集源

- 高松地方気象台**
 - 天気予報、警報・注意報、地震情報など
 - (PC) <http://www.jma-net.go.jp/takamatsu/>
- 香川県防災・国民保護情報**
 - 県内の防災気象情報、災害被害情報など
 - (PC) <http://www.pref.kagawa.jp/kdis/>
- さぬき市**
 - 緊急情報、各種ハザードマップなど
 - (PC) <http://www.city.sanuki.kagawa.jp/>

あらかじめ非常持ち出し品を準備しましょう

- 情報収集に必要なラジオ、携帯電話、夜間の避難に必要なライト
- 貴重品（免許証、健康保険証のコピー、現金、通帳、印かん）
- 当分の衣類、タオル、ウェットティッシュ
- （その他）
 - 予備の乾電池
 - メガネ
 - ライター
 - 乳幼児がいる家庭ではオムツ、哺乳瓶 など

白川原大池 浸水深マップ

地震のあと

このマップは、白川原大池が決壊した場合にどのような被害となるかを知るために、全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定しています。ここでは、ため池決壊による浸水の深さを示しています。災害の状況によっては、表示されている範囲以外においても被害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。

浸水の深さ

- 3m以上の浸水
- 0.5～3mまでの浸水
- 0.5m未満の浸水

避難経路の安全性

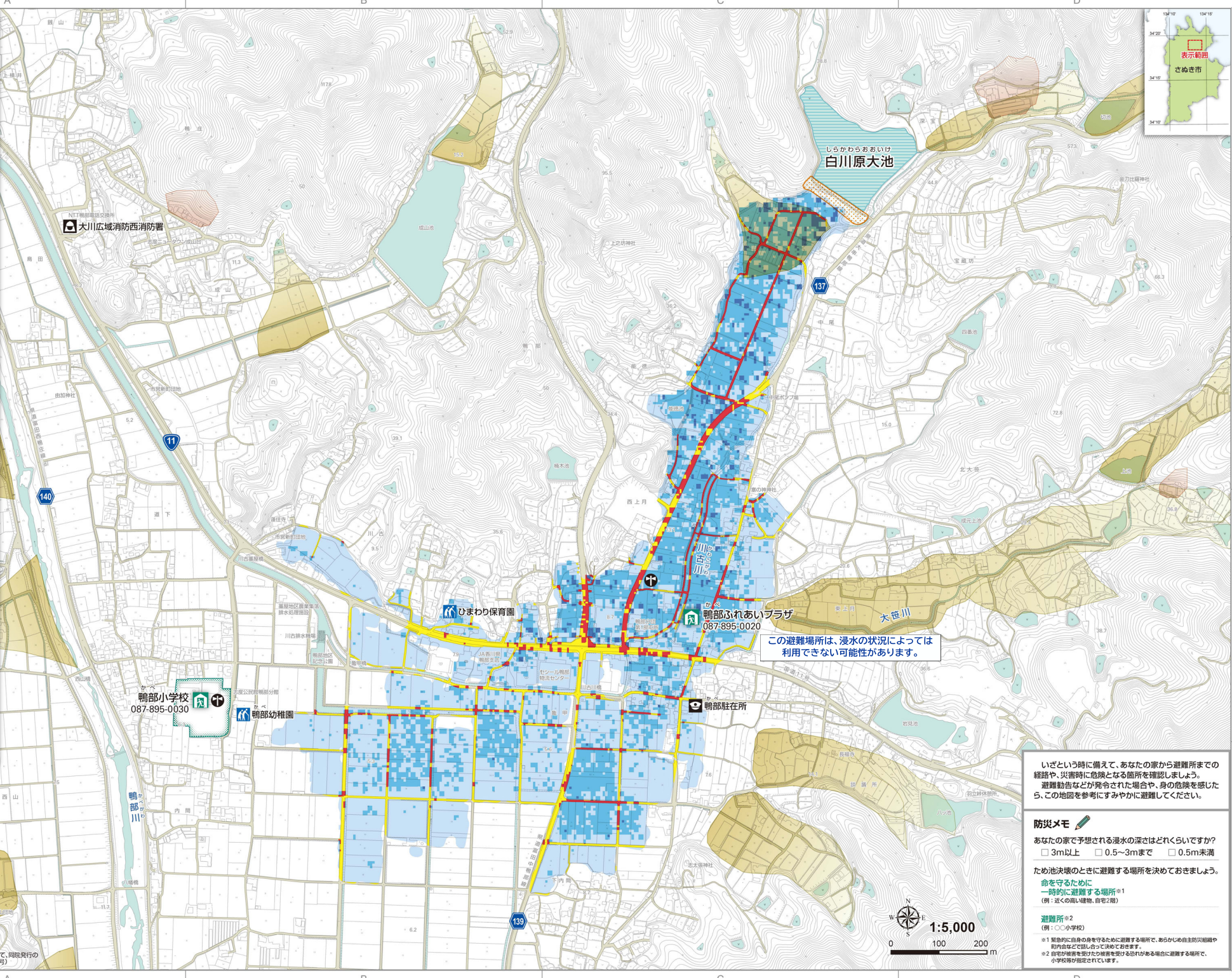
- 特に危険な区域（ため池堤防）
- ひざ上(0.5m以上)が浸水通行は危険
- ひざ下(0.5m未満)が浸水通行には注意が必要

ため池決壊と同時に発生するおそれがある災害

- 土砂災害危険箇所
- 急傾斜地危険箇所

凡例

- 避難所(建物)
- 避難所(敷地)
- 警察
- 消防
- 災害時要援護者施設
- 防災行政無線(屋外スピーカー)



いざという時に備えて、あなたの家から避難所までの経路や、災害時に危険となる箇所を確認しましょう。避難勧告などが発令された場合や、身の危険を感じたら、この地図を参考にすみやかに避難してください。

防災メモ

あなたの家で予想される浸水の深さはどれくらいですか？

□ 3m以上 □ 0.5～3mまで □ 0.5m未満

ため池決壊のときに避難する場所を決めておきましょう。

命を守るために一時的に避難する場所① (例：近くの高いビル、自宅2階)

避難所② (例：○小学校)

※1 緊急に自身の命を守るために避難する場所を、あらかじめ自主防災組織や町内会などと話し合っておくことが大切です。

※2 災害発生時を想定して避難する場所がある場合は避難する場所を、小学校が指定されています。

この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を経て、国土地理院の基礎地図情報を使用した。(承認番号 平24第 第262号)

